

疎開

疎開した厚木の荻野小学校には私を含めてクラスに女性3人の都会っ子がいた。3人とも成績が良かったので、それがしゃくに障るのか、地元

私の履歴書

子 恵 岸
②

「ミミズ事件」で仲良しに

地元の子のいたずらに負けず

人はスツとは立てない。私は悲鳴を上げた。「都会もんの意気地なし」とはやし立てる男子生徒の顔の前で、私は大きなミミズ2匹を両手でつかんでブラブラさせた。

「ミミズくらい平気よ」
皆がボカッと口を開けた。父が釣り好きだったので、私は餌のミミズを釣り針に刺して褒められていたのだ。いたずらはしても皆、気のいい子供たちだった。ミミズ

「誰だ。この子の背中にアリンコを入れたのは」
「おいらだ」
ガキ大将が悪びれもせず

即答したのがおかしくて、先生は「コラッ」とその子の額を小突いただけで終わった。また別の日には雨でぬかるんだ田んぼで麦踏みをした。時々、ミミズがよろよろと地面から出てくる。私以外の2人の都会っ子がキヤーと

り、いたずらされたりした。勤労奉仕の時間があり、私たちは畑のおげ道にズラリと座らされた。背負った籠に先生がサツマイモをどざりどざりを入れてゆく。それを近くの農家まで届けるのだ。

号令とともに皆が一斉に立ち上がったが、都会育ちの3

高倍率だったが、合格した決め手は時間内に論文を書くこと。テーマは『大東亜戦争について』。作文は得意なのですんなりと合格できた。

敗戦の気配が色濃くなってきても、大本営はひるむことなく日本軍の戦果を高らかに

と長崎に原子爆弾が落とされ、日本は戦争に負けた。横浜空襲の朝は素晴らしい五月晴れだった。けたたましい警報とともに真つ青な空はウンカのように押し寄せるB29という銀色の怪鳥で覆いつくされた。朝日を浴びてキラキラと光る飛び魚のような爆撃機は美しくさえあった。

「あ、きれい……」とつぶやいたのを覚えてる。それはほんのつかの間のこと。

B29の大量は身の毛もよだつ恐ろしい本領をむき出しにした。家々や人間を木っ端みじんに破壊する殺人兵器はあたり一面を阿鼻叫喚の生き地獄にした。その頃、科学は命中すると広範囲を焼き尽くす恐ろしい「焼夷弾」を發明していったのだ。

(女優)



疎開前の小学生時代（後列中央）

に放送し続けていた。

1945年3月10日、東京は敗戦を刻印するような大空襲で焼け野原となった。5月29日には私の街、横浜も集中的な無差別爆撃で廃墟と化した。そして8月6日がやって来る。6日の次は9日、広島